

## 第7回館長講座 シチリア島の遺跡(1)

ピアッツァ・アルメリーナ (Villa Romana del Casale) とローマ時代の遺跡

2017年8月5日

シチリア島での調査の合間にめぐった遺跡のうち、Piazza Armerina の Villa Romana del Casale、Solunto、Villa Romana del Castoreale San Biagio のローマ時代の遺跡を紹介します。

ピアッツァ・アルメリーナ Piazza Armerina は、シチリアの中央にあるエンナ県の県庁所在地エンナ [Enna] から南方 40km、牧草地帯と森林地帯を抜けたところにあります。

ピアッツァ・アルメリーナの町の中心は、標高約 700m の山の上であり、町の一番高いところには17世紀の初めに建てられた大聖堂があります。

世界遺産のカザーレ別荘跡（正確にはカザーレの古代ローマ時代のヴィッラ）は、ピアッツァ・アルメリーナの町から、5 km ほど離れた緑豊かな郊外の山間部にあります。

屋敷跡に残る 3500 m<sup>2</sup>以上の見事な床モザイクは、現代に残る古代ローマ時代の床モザイクの傑作とされています。

ローマ時代3世紀の終わりから4世紀の始めにかけて建てられた別荘で、中世の時代に、後ろの山で土砂崩れが起こったため、何世紀も土の中に埋もれていました。屋敷のモザイクの床は、そのため保存状態がよいことで知られています。

広大な敷地面積、屋敷の床に全てほどこされたモザイクの精巧度と緻密度と見事なまでの表現力の高さ、当時地中海全世界を支配していた古代ローマ帝国の各地から運ばれてきたと思われる実にさまざまな色の大理石から判断して、桁はずれの権力と経済力の持ち主が所有していたことが想像されます。

屋敷は、正門、玄関、柱廊の中庭、バジリカ、食事の間、温浴室、微温浴室、冷浴室、体育室、雨天体育場、台所、大廊下、家族の寝室、客人の寝室、召使部屋、水洗トイレ等で構成されていて、そのほとんどの床にモザイクが残ります。具象モザイクに描かれている絵は、古代ローマ帝国の生活や出来事や、ギリシャと密接な関係があったシチリアらしくギリシャ神話に、因んだものが多いです。

まず、浴場施設があります。熱浴室は床下の間隙や焚き出し口が戸外に晒されています。それに続く温浴室、冷浴室のモザイクを覗いてから玄関前のアトリウムを経て、屋敷内に入り、足場に昇ります。左手にトイレがあります。

中庭をめぐる回廊のモザイクには動物の顔・頭が見事です。

天使の漁夫の部屋ですが、中庭の北側部分は客室であったと思われます。

中庭の東側には、アフリカでの狩猟場面のモザイクで飾られた大きな廊下が走っています。

あるじ夫妻の寝室部分で、オデュッセウスが巨人ポリュフェモスに酒杯を捧げるモザイクはその控えの間にあたります。愛のモザイクの部屋と名付けられていて、かわいらしい夫婦の抱擁の場面です。

有名な10人のビキニの少女達のモザイクは、中庭の南側になります。光が悪くてうまく写っていませんが、鉄アレイのようなものをもって運動している姿やボールゲームの様子は今も変わらない姿で描かれました。

ここから一度外に出て、南側の食堂の大三葉形室に入ります。皇帝と来客が宴会をした場所です。このモザイクの主題はヘラクレスの功業に関係があります。

青い肌の女性が動物と共に描かれています。

この遺跡は「Villa Romana del Casale」として1997年にユネスコの世界遺産に登録されました。シチリア島には前回の「アグリジェントの遺跡地区」(1997年登録)を含め、「ヴァル・ディ・ノートの後期バロック様式の町々」(2002年)、「シラクサーとパンターリカの岩壁墓地遺跡」(2005年)、「パレルモのアラブ＝ノルマン様式建造物群及びチェファル大聖堂・モンレアーレ大聖堂」(2015年)の文化遺産のほか、自然遺産として「エオリア諸島」と「エトナ山」があり、日本の四国の1.3倍の大きさの島に7カ所の世界遺産があります。

ソルント [Solunto] は、パレルモの東約17キロ、標高374mのカタルファーノ山の南東斜面の標高200m付近に位置しています。

紀元前700年頃、カルタゴが初めて町を築き、紀元前4世紀の初めに、シラクサーにより破壊されたため、より安全で防御に適した山の中腹に、再び町が築かれました。紀元前4世紀から3世紀にかけて100年以上、カルタゴのシチリアの交易の拠点として発展しましたが、第一次ポエニ戦争中の紀元前250年頃、古代ローマに征服され、紀元後1世紀頃から町が次第に衰退していきました。現在は、1826年頃から発掘されたヘレニズム・ローマ時代の町の遺構が残り、小さな博物館を併設した考古学公園になっています

山の斜面にあります。町は基本的に碁盤の目作りで、遺跡の中心を南から北に1本の大通りが貫通していて、それに何本か道路が交差しています。

大通りに沿って、住居や商店の跡が並び、浴場、ジムナジウム、劇場の跡も残っています。

小さな博物館とその内部です。

道が丘の向こうに続いています。ここで、「この道はどこまで行くと思う?」と一緒に行った学芸に聞きましたら、彼は真剣に考え込んでしまって困りました。答えはもちろんすべての道が続くローマです。

床下の束柱が残る風呂場の遺構です。右の写真は床が残っていてこの床下の構造も残すために現代の束柱で床を保っています。

ローマ時代の家の壁画が残るところで、右上のように上屋をかけて保存しています。

### Villa Romana del Castoreale San Biagio

町にあった案内板で、ローマ時代のヴィラ、モザイクのある床、紀元後1世紀中頃と表示してあります。

モザイクの保護のために上屋があります。ここでも青っぽい色の屋根だが、周りの景観に配慮した色なのだろうか。赤い建物はこの小さな博物館。

中央列柱のあるホールまわりのモザイクのある床をもつ部屋があります。特に特色はないが、冷浴室（それは大理石縁取りのある浴槽があります）には大きい魚と囲まれてボートで釣りをしている魅力的な白黒のモザイクの床があります。

ピアッツァ・アルメリーナと比べるとモザイクのきめは粗いようだ。

温浴室や熱浴室の床下構造。束柱を使うのはローマ時代以来の伝統なのだろうか。

他のモザイクは、単純な幾何学的なデザインです。

用意したスライドはこれで終わりです。次回はシチリアのギリシャ時代の遺跡や町をめぐる予定です。